

旧宣教師館イベント報告 2

「2回目のナイトミュージアム」



▲LEDろうそくとツリーのマッチングも素敵でした。

8月に引き続き、2回目のナイトミュージアムを開催致しました。

12月22(日)1日限りの、通常より1時間30分延長しての夜間開館でした。

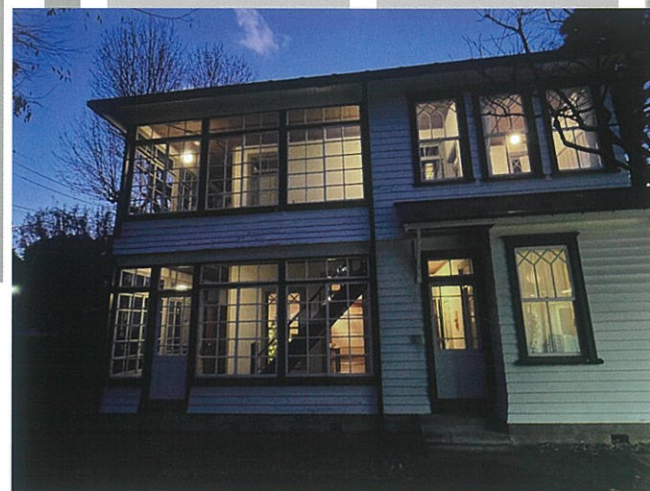
同時に特別に開催されましたギャラリートークも、寒い中でも多くの方々がご参加されました。普段とは違う雰囲気の中での解説に、熱心に耳を傾けて聞いて下さり、クリスマスナイトを楽しんで頂けたことと思います。

また館内の食堂に飾り付けした、高さ2m以上もある大きなクリスマスツリーが皆さんの気分を盛り上げてくれました。暗闇の中で宝石のように光り輝くツリーは華やかであり、窓ガラスからもれるあたたかい光は、それだけで心をわくわくさせてくれて楽しいものです。

「雑司が谷旧宣教師館」はアメリカ人宣教師マッケーレブの自宅として建てられたものです。当時の生活ぶりに思いを馳せながら、旧宣教師館の新しい魅力を発見して頂けたのではないのでしょうか。

今年もまた開催予定ですので、ぜひ楽しみにして下さい！

(馬場 章)



▲窓ガラスがあたたかく輝いて建物が光ります。

雑司が谷旧宣教師館のクリスマス

—館内外でたのしむあたたかなクリスマス—



▲館内外のクリスマス飾りの様子(左上:玄関ポーチ、左下:正門、右:夕方のクリスマスツリー)

旧宣教師館をより楽しんでいただくために昨年度からスタートした、冬の時期限定のクリスマス飾りの設置。

今年新たに屋外にも、クリスマスの装飾を加えて実施しました。

館の新たなシンボルとなった食堂の大きなクリスマスツリーには、昨年引き続き見に来たというリピーターの方も多数おられました。特に去年、生まれたばかりの時にツリーを観に来たという赤ちゃん連れのご家族も、1歳を迎えた記念に今年も遊びに来てくださり写真撮影されていたのが、とても嬉しく印象的でした。

新たに加わった玄関ポーチのポインセチアやクリスマスホーリー。ツリーに見立てて飾りつけをした、ゴールドクレストもご好評いただきました。また来館してすぐ目につく正門の大きなクリスマスリースは、冬限定の記念撮影スポットになっていました。

クリスマスの装飾は来年度も開催予定です！

今度の冬は小さな洋館で、あたたかなクリスマスを味わってみませんか？

(中村 岳)

館内にスポットクーラーを設置しました！ — 覚え書：文化財での酷暑対策を考える —

今年度（2024年度）から館内にスポットクーラーを設置しました。
今回は文化財施設でどのように暑さ対策に取り組むべきかの一事例として、導入の経緯と効果、現状の課題を記してみたいと思います。

■導入の経緯

当館は東京都指定有形文化財であり、平成元年の開館以来、明治～大正期の姿で保存・公開をしています。そのため、エアコン等の空調設備はなく、自然の風や扇風機で暑さを凌いできました。しかし近年の酷暑から来館者の皆さんや、職員の安全を守るために、暑さ対策が課題となっていました。

暑さ対策で一番効果が期待できるのは、エアコンを設置することでしょう。けれども文化財である建物の壁に穴をあけたり、ビスを打ったりと現状を大きく変える必要があります。そこで現状を大きく変えることなく、夏場のみ、置く形で冷却効果が期待できるスポットクーラーを導入することで、暑さを和らげることにしました。

■設置の効果

スポットクーラーは1階に2台、2階に1台設置しました。冷気をできるだけ逃がさないように、夏場は玄関ドアを開閉式にしています。現状、午前中から稼働することで、夏場40度を超えていた正午ごろの館内温度が30度程度にまで和らげることができています。あくまでスポット的な涼み処として想定していたスポットクーラーでしたが、予想を上回る効果を発揮してくれています。昨年まで夏場は暑さで休止を余儀なくされていたギャラリートーク等のイベントも、設置後は工夫をしながら実施出来ているのも大きな成果です。

また懸念事項となっていた湿度変化も、簡易的な計測では大きな変化はみられませんでした。また館内の展示資料への負担も、温度や湿度の上昇を抑えられることから軽減できました。

■課題と対策



▲ダクトの設置方法も建物が傷つかないように工夫しています。

設置の上で大きな課題となったのは文化財の保護です。スポットクーラーは室外機ではなく排気ダクトを持つため、窓際に設置し、排気ダクトを外に出す必要があります。窓枠も大切な文化財の一部ですので、硬い部品が当たらないように、位置を工夫するなど対策をしています。また窓からダクトを出すことから、夏場の急な豪雨など、天候の変化にも迅速に対応する必要があります。これについては、天気予報をこまめにチェックして、事前に風のみ運転（扇風機のように利用でき、ダクトから温風が出ることがないモード）に切り替えるなど、運用のルールを作ることで解決しています。

文化財施設での暑さ対策は事例が少なく、ひとつひとつの課題をクリアしながら進めています。外に排水できないため、タンクに貯まった冷却水を1日に5回以上捨てなければならない点や、日々の開閉館時に職員が窓を開閉して設置しなければならないことなど、多少の負担があるのも現状です。しかし設置初年の夏を終えてみて、文化財の現状変更をせずにおこなえる暑さ対策として、スポットクーラーの設置はとても有効だと考えています。今後も当館では夏も快適に楽しんでいただけるよう、工夫をしながら対策をおこなっていききたいと思います。

(中村 岳)

旧宣教師館イベント報告 1

音と物語の美しきフュージョン — オータムコンサート開催レポート —



▲アンコールでの大合唱の様子

11月3日（日・祝）に、ピアニストの山内のりこさん、サクソフォンの岩淵みずきさん、朗読の語り手として石井環世さんにご出演いただき、オータムコンサートを開催しました。好天にも恵まれて、あたたかな秋の日に芸術を存分に味わうコンサートになりました。

当館のコンサートでは食堂に展示されている、約90年前に国産で作られたウェスタンピアノの音色を、様々な楽器とともに楽しんでいただけます。この日も年2回の貴重な機会を求めて定員を上回る多くの方にご来館いただきました。

コンサート最大の目玉は、交響的物語『ピーターと狼』での音楽と朗読のコラボレーションです。ピアノとサクソフォンの美しいしらべに耳を傾け情景を思い浮かべながら、心のこもった朗読のおはなしを楽しむひとは、物語の世界に自らも入り込んだと思うほど、没入感のある贅沢な時間でした。

最後のアンコールでは会場の皆さんとともに「^{はにゅう} 埴生の宿」の大合唱。ピアノとサクソフォン、会場全員の歌声が、歴史ある木造建築で美しく響きます。悠久の時を超えて文化を味わう、当館ならではのコンサートになりました。

『赤い鳥』と楽しむ、おはなし会

10月19日（土）、『赤い鳥』コーナー（旧教会事務所）で第2回のおはなし会を開催しました。今回は『赤い鳥』から新美^{にいみ}南吉「^{なんきち}ごんぎつね」、児童文学作品から岸^{きし}なみ「^{なみ}ためきの糸車」を楽しんでいただきました。

10月になってもまだまだ暑い日の午後でしたが、語り手の方の迫力ある朗読と、白壁に大きく投影された挿絵で、普段とは少し違う物語の楽しみ方をしていただけたかなと思います。

(中村 岳)



▲プロジェクターを使った壁面投影で、大きな挿絵とともに作品をたのしみます。